

保育闘争委員会ニュース 公的保育を守り拡充させよう

2015年
3月11日(水)
第126号

発行 = 東京自治労連保育闘争委員会 Tel.03-5940-7951 Fax.03-5940-7957 honbu@tokyo-jichiroren.org

辻元衆院議員、公立保育所非正規職員問題追及 塩崎厚労相、調査を約束

辻元清美衆議院議員は、2月20日の衆議院予算委員会において、「公営の非正規率が非常に高くなって、公営についてももしっかり目配せしないと、保育士さん、子育てと仕事の両立は難しい」とし、明星大学垣内研究室が実施した「東京都の公立保育園における非正規職員の実態調査」を衝撃的ニュースとして内容に触れながら、公立保育所の非正規職員の問題を追及しました。

辻元議員「石破大臣、地方創生の観点からも、特に被災地の公営も、福島県の事例なんかも調べてみましたけれども、月12万円程度で非正規であるというような人も多々見受けられる。地方復興の観点からも、厚労省と協力して調査して、国からの交付の財源で賄うというだけではなくて、手当てを子育ての視点からもしていくべきと思いますがいかがですか」。

石破大臣「保育士の資格を持ちながら保育の現場に出ていない方は60万人弱いる。これはなぜか見なければならぬ。保育士の方々の処遇の改善は不可欠であるとの認識は持っている」。

辻元議員「公立を含めて調査の開始を約束していただけますか」。

塩崎厚労相「全社協の組織を使うなり、我々も直接ヒアリングするなど、調査をぜひこれから前向きにしていきたいと思っております」。

「保育を楽しむための連続講座第4回」 宮里六郎氏講演に深い共感、81人参加

“子どもを真ん中に”を疑う～保護者との良い関係の作り方～



2月15日(日)にラパスホールにて、第4回保育を楽しむための連続講座を開催し、81名の参加がありました。午前中は、熊本学園大学社会福祉学部子ども家庭福祉学科の宮里六郎さんが「“子どもを真ん中に”を疑う～保護者との良い関係の作り方～」をテーマに、実際に保育園であった事例を用いながらお話ししてくださいました。日頃の保護者対応を振り返り、視点を変えて保護者と関係作りをしていこうと思うようなハッとさせられるお話がたくさんあり、聞き入ることができました。「善意のつもりでも“正論”を言われると“説教”に聞こえていることがある」「人は“要求”よりも“感動”することで心が動く」、「保育士は子どもの立場になりすぎる。親も一人の人として考えることが大事」「“保育”と“子育て”は全然違う営みと考えた方がよい」というフレーズがと



ても印象的でした。

午後は少人数に分かれてグループ交流を行いました。グループ交流では、午前中の講座の感想と「保護者との関係作り」をテーマにそれぞれ話をしました。宮里先生のお話を聞き、「新しい視点をもたらした」「保育と関係ない話も大切だと感じた」「子どものためにという気持ちが強かったという所に反省した」という声が多く聞かれました。また、他区の方や経験年数が様々な方と1時間30分交流ができ、ベテランの方からは「一年目の方と話すことができ、我が保育を振り返るきっかけになった。新鮮だった」。経験年数が浅い方からは「アドバイスをいただけて良かった」「何年経っても悩みながらやっていると感じて良かった」というような感想が聞かれ、有意義な時間となったようです。

今回の3月20日の連続講座は、第1回目のときに講師をしていただき好評だった墨田区公立保育園保育士の高橋光幸さんに「保育を楽しもう2～乳児保育も幼児保育も、面白ければ面白くなる～」というテーマでお話していただきます。

【アンケートに書いていただいた感想をいくつか紹介します。】

女性・20代・保育士歴1年目「子どものため、子どもにとって、など、子どもについてばかり考えて保護者の方と話してしまっていたと思いました。保護者の方も一人の人間であることを忘れず、寄り添っていったらと思います」

女性・20代・保育士歴1年目「自分には保護者と関わる力や信頼関係を築くことが足りないと思うので、この熱意が冷めないうちに本などを読んで学びたいと思うきっかけになりました」

女性・20代・保育士歴2年目「子どもの笑顔のために、親の笑顔を作っていくことが大切だと気付いた。子どもの親を思う気持ちを伝えたり、親の気持ちを受け止めながら、共に考えていけるような保育者になりたいと思った」

女性・20代・保育士歴6年目「子どもを真ん中にを当たり前にそして大事にして保育をしてきたので、今回の講義は新しい視点を持つことになった。正論で相手を追いつめるのではなく、保護者を一人の人間として分かろうとしないといけないと思った」

女性・20代・保育士歴6年目「子どもの目線に立って気持ちを考えていくことが大切だと思っていたが、保護者の気持ちも尊重し対応していくことの大切さを学んだ。振り返ると、要求（お願い）などした時の保護者の気持ちを考えることができていなかった。保護者の笑顔も作り出せるように考え方を見直して保育者として頑張っていきたいと思う」

女性・30代・保育士歴13年目「保護者に対して消極的になっていたことを反省し、明日から少しずつ頑張っていきたいなと思います」

女性・40代・保育士歴20年目「親への対応、上から目線にならないよう気をつけます。親には親の悩みがあるのを理解しなければならぬと思いました」

女性・50代・保育士歴33年目「保護者との関わりは毎年毎年自分の中では課題です。正論であっても押し付けないように気を配ってはいますが、言われてしまった…という思いが残ってしまうこともありました。何年保育をしても悩み、難しい所です。一人の人間として付き合っていくことを基本に頑張りたいです」

【傘下の組織や保育関係者に配信・配布してください。】